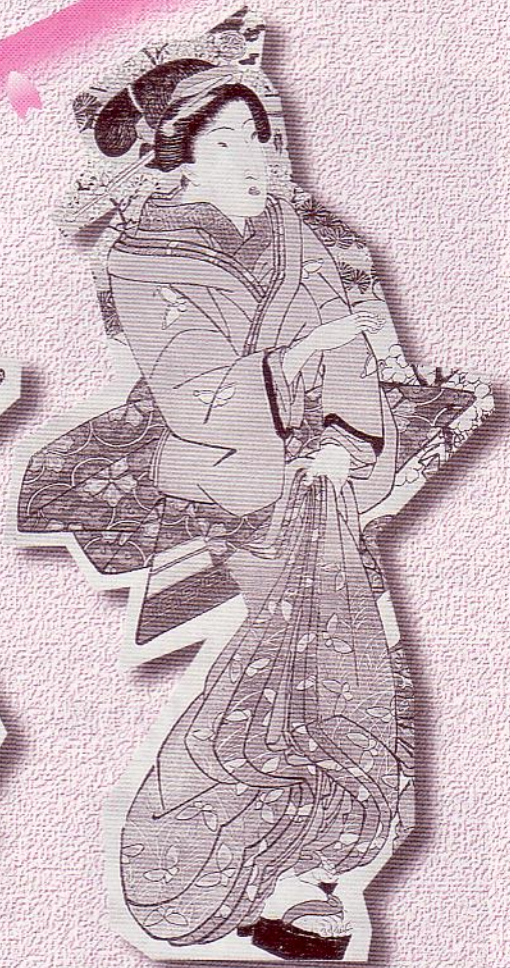


Voice 8

ぼいす

2002. 3 .15

北区飛鳥山博物館だより



ASUKAYAMA

1. 初体験・・・とにかくやってみよう

23区内でも最大級の博物館というふれこみでこの博物館が出来上がったのが、平成10年の3月。開館後すぐに博物館の今後のあり方を運営協議会の皆さんのご意見をいただきながら、学芸員と様々な議論を行い企画展や生涯学習支援事業を中心に、失敗をおそれずやってみようと、まさに、試行錯誤を繰り返しながら実施してきた。

2. 事業展開・・・息をつくひまもない？

そして、様々な事業をこなしてきて、その事業にどんな成果があったのか。次年度にどう結びつけていくか十分検討する余裕がないほど忙しい毎が続いた。まさに自転車操業のように、次から次へと新規事業を行っていくのにせいいっぱいという状態だった。それでも、その過程のなかから少しずつ利用者が何を望ん



実物を使った博物館ならではの講座

でいるのか、館の運営方針にあった事業を模索してきた。学芸員総勢6名。今は若いからなんとかもちこたえてる。10年後大丈夫だろうか？心配しながらの事業運営だった。

3. 博物館は期待されている！・・・ 博物館に対する評価

開館してちょうど丸4年。こんな状況下のなかで、

北区で事務事業評価制度がはじまった。「現状維持」「縮減」「拡充」「休止」「終了」「廃止」「その他」の7項目あるなかで、博物館に対する総合評価は「拡充」であった。一次評価を行う所属長や事業担当部長はもとより、二次評価を行った企画部からも「拡充」ということであった。学芸員はじめ他の職員のいままでの実績が認められたわけである。ただし、「今後、学校完全週5日制や総合的な学習の時間などの実施により、博物館に対する期待は大である。引き続き管理経費の縮減に努めながら、事業の拡充を図っていくべきである。」こういった付帯条件がつく。学校との連携はもとより、博物館が地域社会にどう貢献していくか。そして、それをどのようにきちんと評価してもらうか、課題は盛りだくさんである。



博物館はみなさんに支えられています。
(七夕飾りを終えて。常設展示室にて。)

スポット展示

「ハル・はな・賑わい」 3月26日(火)～4月21日(日) 観覧無料

時代は移り変わっても、春を待ち遠しいと思う気持ちは変わらないものです。そして、春。私たちは五感をいっばいに使って季節を感じます。中でも、色とりどりの花々は、私たちの最も身近で季節を伝えてくれる存在でした。嬉しいことに、江戸時代から現代に至るまで、北区にはこうした季節を告げる花々

を多くの場所で眺めることができました。「名所」飛鳥山の桜をはじめ、各所で咲き誇った花々は現在まで私たちの目を楽しませています。今回の展示では、区内の春の情景を、錦絵や絵葉書などをおしてご紹介したいと思います。飛鳥山の春の息吹とともに、ぜひご覧ください。(R.Y)



「昭和大東京百図絵 王子区・飛鳥山公園」小泉癸巳男

収藏品のご紹介

見立番付 「東都浪花 とうとなにわ りょうりぢゃやくらべ 料理茶屋競」

江戸時代には、様々な情報伝達ツールが発達していました。そのひとつが一枚物の刷物です。なかでも、事柄を東西に分けて相撲番付さながらに見立てた「見立番付」には、名所・名物や火事・祭礼はもちろん職人や芸妓・評判娘など、巷の話題が取り上げられました。こうした番付は、文化～安政期（1804～60）に最も盛んに出されたといわれています。今回取り上げた史料は右に江戸、左に大坂の有名な料理茶屋の名前を記し比べた「料理茶屋番付」です。東の勸進元には有名な八百善の、また西の横網格には貝杯で知られた天王寺の浮無瀬の名が挙げられています。この史料の正確な年代は不明ですが、掲載されている料理茶屋の成立、廃業の

年代を大まかに考え合わせるとおよそ文化～文政年間（1804～27）と考えられます。

料理茶屋は現在でいうところの料亭・割烹の類にあたり、質も値段もハイグレード。明和年間からすでに存在していますが、とくに江戸では寛政改革の厳しい締め付けから解放された人々のパワーが噴出した化政期に、盛りを迎えました。そんななか、美食家達をもうならせる当代きっての名料亭として、王子の海老屋・扇屋がその名を刻んでいるのです。飛鳥山の桜を前に、「しらぬ人もなく名高

き茶屋」（『寝ぬ夜のすさび』）である両店の味に舌鼓を打つ…。まさに江戸のみならず、各所庶民の憧れの的であったことはいうまでもありません。皆さんもこれからの花見シーズン、お気に入り店の一品料理を味わいつつ、咲き誇る桜を愛でてみてはいかがでしょうか。

（中村）



もっと知りたい

常設展示

突然ですが、5月に常設展示室の一部を展示替えます。今回はその予告編として、新資料をご紹介します。

昨年7月、北区田端1丁目の田端不動坂遺跡の発掘で「珠文鏡」と呼ばれる古墳時代の鏡が出土しました。鏡は直径が約5.6cmの小

型のもので、この鏡は8号土坑と名付けられた穴の中から、141点にもおよぶ玉類と共に出土しました。玉類は勾玉や管玉、棗玉、小玉など種類が豊富です。このような古墳の副葬品に匹敵する鏡や玉類がなぜ集落内の土坑から出土したのでしょうか。集落内での祭祀に関すると考えられますが詳細は調査中です。

この田端不動坂遺跡出土の「珠文鏡」と玉類など、8号土坑出土品一括が常設展示に加わります。博物館も5年目を迎え、新たな資料の登場です。どうぞ期待。（直）



珠文鏡

お知らせ
「ぼうす」では皆さんの声をお待ちしています。感想・ご意見などをお寄せください。
〒114-0002 北区王子1-1-3 北区飛鳥山博物館 Eメール: Askamuse@kitanet.co.jp

博物館からのお願い 古い写真探しています

みなさんのお宅に古い写真はありますか？昭和50年代から明治・大正期までの北区の町の様子が写っている写真を探しています。あなたが撮った写真の中に、北区の貴重な昔の一コマが残されているかもしれません。大切な写真でしょうから一時お預かりして、複写させていただきだけで結構です。ぜひご協力お待ちしております。



明治～大正頃の西ヶ原一里塚
「あっ！右端に井戸車がある」



学校対応事業「来て、見て、さわって！ むかしの道具」ってなんだ？

普段は収蔵庫の中でひっそりと過ごしている古い生活道具たち。しかし、冬期ばかりは彼らが主役。なぜなら、小学3年生が「昔の道具さがし」に博物館へやって来るからです。

○「ちょっと“むかし”の道具たち ～道具からむかしを知ろう！」

展示室に並んだ道具たちを見て、ある程度のお年の方なら「なつかし～」「私もコレ、使っていた」とおっしゃるでしょう。お櫃入れ、ちゃぶ台、洗濯板、湯たんぽ、etc…。これらはちょっと前まではどこの家庭にもあったものばかり。しかし、今時の子どもたちにとっては馴染みのない“むかし”の道具。電気・ガス・水道の普及、ライフスタイルの変化などによって、身のまわりの道具もどんどん変化しています。昔の道具を知ることで、それが使われていた頃と今との生活の違い、あるいは共通点、昔の人の知恵や苦

労なども知ってほしいという思いがこの展示には込められています。



○さわってもいいんです！

「ワーッ」とざわめきが起こって、子どもたちの顔つきが変わるのが分かります。そう、この展示はナントさわってもいいんです！ホンモノを生で見るというだけでも教科書では得られないものがありますが、やっぱり実際に手に取って見ないとわからないことがあるのも事実です。ですから、この展示は子どもたち自身が興味のある道具を自由にさわって調べられるようにしました。「このアイロン、すごく重たい！」「この冷蔵庫、木でできてるし、ドアの開け方もちがう…」いろいろな声が聞こえてきます。大きさ、重さ、質感などを身体で感じることで

得られる驚きや発見など、知識以上の何かがきっとあったはずで。昔の道具の良さも知り、感心しきりの子どもたち。「コレほしい！」と言われても…



○やってみて、はじめてわかったヨ！

学校見学でやって来た子どもたちは、ホンモノの道具を使った体験学習も行いました。今回は手押しポンプ・手桶・洗濯板・鹽・張板を使ってむかしの洗濯に挑戦です。今ならボタン一つで機械がやってくれる洗濯も、水を汲むところから干すまで、すべて手作業です。「重い」「冷たい」「くたびれた」と言いながらも、「でも、楽しかった！むかしの人はスゴかったんだね。」「もう洗濯板だって、上手につかえるよ！」と満足そうなみんなの顔がとても印象的でした。(ゆ)



岩渕水門付近は見晴らしも良く、絶好のお散歩コースです。赤水門を渡るとちょっとした小島になっていて、何やら鉄錆のかたまりのような不思議なオブジェがあったり、のんびりと尺八の練習をする人や、詩吟を楽しむ人がいま



「農民魂」の証明

す。ところでみなさんは鳥の先端に高さ約4メートルほどの大きな石碑が建っていることをご存じでしょうか。

この碑は昭和13年から6年間、荒川堤で行われた草刈り競争を記念して建立されたものです。篆額には「草刈の碑」とあり、碑銘に刻まれた「農民魂は先ず草刈りから」 (!!) という標語は明治から昭和にかけての大言論家・徳富蘇峰95才の時の揮毫です。草刈りは水田や畑、路傍の雑草を鎌で刈り取る作業で農作業に不可欠の技術です。刈り取った雑草は緑肥として水田に埋め込んだり、牛馬の飼料にしました。しかし金肥の流行により次第に草刈りが行われなくなってきたことを憂え、また草刈

りこそ「農民の魂」だということを奨励するために、なんと荒川土手で草刈り大会が開かれたのでした。大会には各地から男子青年団、女子青年団、農学校、壮年団の四部門ごとに町村大会、郡大会、都道府県大会を順次勝ち進んだ選手団が集まり、最後に決勝戦を開催しました。兩岸には各大応援団が旗指物をなびかせ、ホラ貝を吹き鳴らし4万人もの選手が炎天下2時間にわたって大熱戦を繰り広げました。大会は戦局の激化によって昭和19年に中止されましたが、昭和32年に建てられた記念碑だけが「農民魂」と熱戦の興奮を今に伝えています。(I)

お客様の声

アンケートによせられたお客様の“ほいす”をいくつかご紹介します

「夏休みわくわくミュージアム 思い出空間夏を集めよう」より

○どれもなつかしく、子供の頃を思い出しました。特に、ブリキのおもちゃの洗濯機は私が持っていた物とたぶん同じだと思い、うれしくなりました。「きいちのぬりえ」とか、牛乳のフタとか、これからも種類を増

やして展示して下さい。また来ます！(区内40代女性)
○昔のことについて色々とおわかったことがありました。グリコのおまけなんてはじめて見ました！蚊やりのフタとか…。とてもおもしろかったです！(区内中学生女性)
◇年代によって懐かしくもあり、新鮮でもあるんですね。(編)

春期企画展「環濠をもつムラ飛鳥山遺跡」より

○子供の頃に見た飛鳥山の発掘現場を思い出し、懐かしくなりました。弥生時代に限らず、北区の歴史がわ

かる企画があればと思います。余談ですが、子供の頃(昭和30年代)に飛鳥山のやや上流、石神井川沿いの崖で大きな骨をいくつも発掘したことがありました。あれは一体何だったのでしょうか。遺跡か、墓か、はたまた殺人現場か？。びっくりして逃げ帰りましたが、この歳になっても気になっています。(区内40代男性)
◇何の骨だったのか私も気になります。もしかしたら大発見だったかも？(編)

講座「風俗画報に見る100年前の明治東京」より

○北区へ引っ越してきてこの街を好きになるよう、知りたいとの思いから講座に参加しました。毎回お話が面白く、北区ニュースが届くと博物館のニュースを探すのが楽しみです。ぜひ、また講座を続けてください。(区内60代女性)

○会社勤めのため、土日ののんびりと別世界の勉強ができるのが楽しいです。(区内50代男性)

◇ありがとうございます。これからもご応募お待ちしております。(編)

人物往来

昨年の10月31日をもって岩崎みどり学芸員が退職し、その後任として12月1日から中村洋子学芸員が着任しました。

◇みなさん初めまして、中村です。長野県出身ですが寒さには弱いです。大学では近世文化史を学びました。まわりの方の足手まといにならないよう頑張りたいと思います。よろしくお願いします。



新米学芸員ただいま奮闘中!!

お知らせ

燻蒸のため6月11日(火)～14日(金)の4日間をお休みいたします

博物館の大切な資料を害虫から守るため燻蒸を行います。人も燻蒸しては困るので、博物館は休館とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

ひねもす

えっ、こんなものが・・・
いいえ、こんなものこそ

「博物館には何がある？」いきなりの質問です。「昔のもの」とか「貴重なもの」という答えが返ってきそうですね。確かに博物館には「昔のもの」や「貴重なもの」がたくさん集められています。これらは、博物館の資料であり、私たちの生活や歴史を伝える「文化財」でもあります。

では、「昔」とか「貴重」とは何なのだろうと考えてみると、これがなかなか難しいのです。例えば、平成9年に昭和初期の建築物(しかも現役で保険会社が使っている)が国の重要文化財になってますし、高度成長期の暮らしなどを展示する公立博物館もあります。私たちの暮らしのサイクルはどんどん早くなっています。あっという間に現在は過去になってしまう。少し前の生活や文化もこうした時の流れの中では「歴史」という範疇に含まれるようになってしまいます。

もう一つの例。ここに普通の家に残った1枚の古い電気料金の領収書があります。発行先を見ると王子電気軌道となっている。これから、昔は電力会社でない所が電気事業を行っていたことがわかります。地域の歴史を伝える資料が「文化財」であるなら、この領収書も「貴重」な文化財なのです。「うちには文化財なんてないよ」といわれる方も、こうした資料なら押入れの奥に眠っているかもしれません。



従量電燈料金領収証(柴田家文書)

まさに、身近な「こんなもの」が地域の歴史を伝えるのです。

もちろん、過去の全てを残すことは、不可能です。でも、時々、博物館の収蔵庫で様々な「文化財」に囲まれていると、人々の暮らしていた息づかいが聞こえてくるような気がします。(R.Y)

平成14年度の主な事業予定

- 春**
- ◎スポット展示「ハル・はな・賑わい」
 - ◇江戸絵本入門「続・絵本江戸土産」
 - ◇第2回あるけおろじー「古代の道をたどる2」

- 夏**
- ◎企画展「金の船・金の星」
 - ☆イベント「第2回夏休みわくわくミュージアム」

- 秋**
- ◎企画展「七社神社前遺跡の諸磯大集落」
 - ◇講座「日本煉瓦製造(株)と誠志堂」

- 冬**
- ◇第6回遺跡探訪
 - ◇講座「江戸名所図会を読む」

事業名は全て仮称です。
この他にも各種事業を予定しています。詳しくは館発行「催し物案内」をごらんください。

利用のご案内

【開館時間】

午前10時00分～午後5時

(有料の展示室への入場は午後4時30分まで)

【休館日】

毎週月曜日(国民の祝日・振替休日の場合は開館)

年末年始(12月28日～1月4日)

国民の祝日および振替休日の翌日(土曜・日曜日の場合は開館)このほかに臨時休館日等があります。

【開館時間】

	個人	団体
一般	300円	240円
小・中・高	100円	80円

- ・小学生未満は無料
- ・団体扱いは20名以上
- ・三館共通券は当館のほか、渋沢史料館、紙の博物館の3館をごらんになれます。(一般720円小中高320円)



編集後記

ぼいす vol.8 いかがでしたか? 突然の編集長交代劇で、内容も前号を踏襲する部分と新企画とが、ミックスしたものになってしまいました。紙面は生きもの。より読みやすく、よ

り新しいことを試みて、より良い紙面づくりを心がけていきます。今後もごひいきに。

(直)

北区飛鳥山博物館だより ぼいす Vol.8

発行 平成14年3月15日
編集 北区飛鳥山博物館
〒114-0002 東京都北区王子1-1-3
TEL. 03-3916-1133
発行 東京都北区教育委員会
〒114-0022 東京都北区王子本町1-2-1
TEL. 03-3908-1111 (代)
印刷 羽陽美術印刷(株)